

開悟

開悟



図版② 杜甫の『江亭』詩の「水流心不競、雲在意俱遲」の一句

## 「落ち穂拾い記」 ⑧「開悟」山内得立 現代（1890～1982）

京都の寺町通りは、古書店が所々にあり、学生時代から関西に出向くときや帰郷の折りには立ち寄っている。近年、古書などは東京集中が多くなり、地方のおもしろみが少くなりつつある。数年前、寺町の書画屋さんで、暇に任せて店の品物を見ているときに、未装のまくらのままの多くの書作品を無造作に入れられたダンボール函を見つけ、開けて見ていた。筆者は知らない人物であったが、面白い書なので数枚、分けてくれるようにお願いした。

主人はダンボール函ごと全部どうかと、偉い先生のお家の方から譲り受けたものだと。そんなに多くは必要ない

ので数枚を選んだ。後で山内得立という京都名譽市民の偉い先生の書ですよと教えられた。帰宅してから半切一枚と半切半分の大きさに二字書きの作品三枚を並べながら、調べてみると、戦前から戦後にかけて西田幾多郎・久松真一と続く「京都学派」の哲学者であり、文化功労賞を受賞されている人物であると知った。西田幾多郎や久松真一の書作品は、それなりの評価がされており、作品もそれなりに見ていた。

今回示した「開悟」の二字は、京都の店で見た何十枚の作品の中で、最も好きな作品であった（主図版①）。ただ落款がないが、好きな書なので軸装に

仕立てて楽しんでいる。没後の翌年に遺墨集が刊行されている。晩年に近い作品は、行草体で自由闊達に筆を走らせる。右端に「九十得」と書かれていることから、晩年の作であろう。主図版の「開悟」は、晩年ではなく、六、七十年代の書を楽しみ試行錯誤させていたときの作で無かるうか。伸びやかな筆画で、余り拘りのない自由な趣を感じる。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。  
木鶏室・伊藤滋

# 書道芸術院 平成の群像 (2016)

小野澤旭堂



「鶴声秋更高」

小野澤旭堂 喜寿記念

篆刻・刻字展

修業中父の用事で、石井双石先生宅をお訪ねした事もありました。近大分後のことです。また、修業先の師匠が内藤香石先生とお知り合いで、父との関係もあり、何度かお逢いする機会がありました。この様に恵まれた環境にありながら、書道・篆刻・刻字への取り組みが遅かったのは、若気のいたりか……。

篆刻・刻字のご指導をいただいた千田得所先生が他界され20年近くの歳月が流れ、試行錯誤の毎日です。

刻字の源流は歴史と文字伝達・保存目的と伺いました。諸先輩のご努力で、自書自刻をかかげ、日本刻字

昭和26年、私が中学生の頃、篆刻家の関野香雲先生が八戸に何か月か滞在し、刻字の仕事をされました。その時作品づくりを身近で拜見する事が出来ました。現在八戸の対泉院というお寺に立派な作品が残っています。私は家業を継ぐため上京し、6年間修業に励みました。

修業中の用事で、石井双石先生宅をお訪ねした事もありました。近代篆刻界の最長老の方と知ったのは大分後のことです。また、修業先の師匠が内藤香石先生とお知り合いで、父との関係もあり、何度もお逢いする機会がありました。この様に恵まれた環境にありながら、書道・篆刻・

刻字への取り組みが遅かったのは、若気のいたりか……。

今日では、合板、ソフトセラミック、陶板等多様です。近年中学校、高等学校書道授業に、篆刻・刻字が取り入れられた事はうれしい限りです。

我が国で生れ育った刻字藝術が世界中の人々に理解・愛される事と信じてやみません。

ただひたすらに刻る

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

創立記念日講演会（11月23日）  
筆刻 河野隆先生講師で開催

またユーモア溢れるお話を盛り上った。  
2時間弱に伸びた講演終了後、会場を移して院の誕生日を祝う懇親会が先生からの活動報告や各種展覧会の案内などを交え和やかに開催された。各総支局からも盛り上がり、大いに盛り上がった創立記念日であった。

恒例の本院創立記念日講演会が本年も上野精養軒にて開催された。本年11月23日は創立70周年の記念すべき節目に当たる。

当日午前中に本院第3回定期理事会が開催され、今回は顧問、評議員の皆さんにもオブザーバー参加していただけた。創立70周年の記念事業の細目、実施内容などをご審議いただき原案通り可決、今後具体的な諸準備に向かうこととなった。

講演会は午後2時より開始、演題は「落款印の役割」と題し、日展会員、読売書法会常任理事、大東文化大学教授で、本年開催の第3回日展で会員賞を受賞された河野先生の機知に富み、超具体的な実技も交え200名をはるかに超えた参加者を魅了した。

最初に参加者にハプニングのテスト、西川寧、手島右卿、日比野五鳳各先生など5作品の代表作の雅印の位置はどこに押すか、配られたコピーに皆苦しんだ。全作品正解者もいたがほとんどは半分以下しか正解しなかったようだ。その後落款印の使い方、押印のコツ、印泥の手入れと扱い方など実演を交え、



講師の河野 隆先生

高野山開創1200年記念  
奉賛献書展開幕



恩地先生作品の前で

全日本書道連盟書道講演会

講師に五島美術館副館長の名児耶明先生をお願いし、「日本の書にみる日本の大意識」と題して、国立新美術館3階の講堂は満席の参加者で盛会であった。11月24日当時は時ならぬ大雪に見舞われ、参加者の動向が心配されたが、多くの方々にお出でいただき担当としてホット一安心であった。

仮名の成立から平安時代初期、かなの確立後の変遷、漢字と比較して曲線、連綿、細線の特質はなぜ確立したのか。線と面の美、散らしの美、装飾料紙の美、自然美と日本など仮名を取り巻く様々な要素を画像映写で具体的かつ興味深く説き起こされた。参加者は大い

挨拶し、代表者によるテープカットで開幕した。当日は本院小伏竹村、小扇ご夫妻、小林琴水、下谷洋子、種谷萬城ほか多数の皆さんのがご列席され、盛況であった。

に満足した充実の講演であった。

2017 現代の書新春展など開催

恒例となつた毎日新聞社・毎日書道会主催による「現代の書新春展」は銀座和光ホールでの27人展、セントラルミージアムでの65歳以下の審査会員選抜100人展の2会場で開催される。多くの方々のご高覧を。

・会期 平成29年1月5日～11日  
・和光出品者 辻元大雲・下谷洋子  
セントラル出品者 種谷萬城・千葉蒼玄・前田龍雲

・ギャラリートーク（和光）15：00～  
7日（石飛博光）、8日（仲川恭司）  
9日（小山やす子、松井玉箒）  
10日（中原志軒）  
・席上揮毫（セントラル）13：00～  
6日（千葉蒼玄）ほか、9・10日も  
・作品解説 8日（種谷萬城）  
7・11日も開催。

\* 2017毎日チャリティ書展

・会期 平成29年1月5日～11日

・会場 東京銀座画廊美術館8階

・本院関係出品者（50音順）

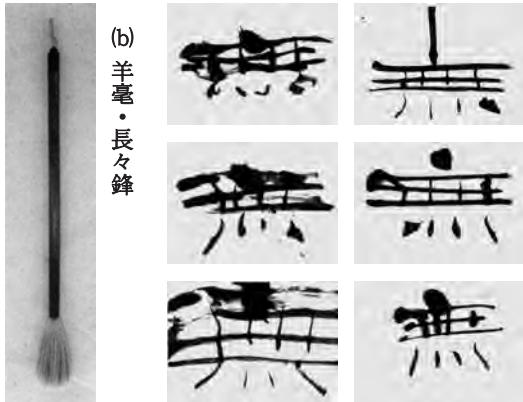
飯田春香、石井明子、石田春窓、板垣洞仙、大辻多希子、大野祥雲、小山鳳来、香川倫子、金井如水、北村白琉、小池蹊舟、小竹石雲、小林琴水、小伏竹村、齊藤雨城、嵯峨大拙、山藤美知子、下谷洋子、種谷萬城、田村鄭雲、千葉蒼玄、辻元大雲、津田海仙、浜谷芳仙、半田藤扇、福島李舟、三森慧香、宮澤梅径、山口仙草、山田梓江

## 漢字(三)

## 生田翠龍

## かな(三)

## 勝山初美



(a) 「無」

結体は点画の組み合せによって成り立つのですが、その構成法は篆書の時代には「分間布白」で済んだものが、「書くこと」を意識しはじめた隸書の時代以後、複雑になりました。行草が発展し、楷書を生み、議論は盛んになり、建築の考え方方が導入された「間架結構」は定着しています。しかし、後漢に若者は習字からくるストレスを爆発させたのか、草書に走りました。

当然の如く批判が起り、趙壹『非草書』が著わされ、これはこれで初めての芸術論という名譽は得ましたが、流れを止めることは出来ませんでした。おかげで、書は芸術にまで高められましたし、王羲之の行草、歐陽詢や褚遂良の楷書も完成された姿で世に現されました。

それで終りません顔真卿や懷素が新たな世界を開き、日本では空海や仮名を産み、明末清初のロマンティシズムは、日本の片隅で僅かに筆を楽しむ小生をしてワクワクさせます。

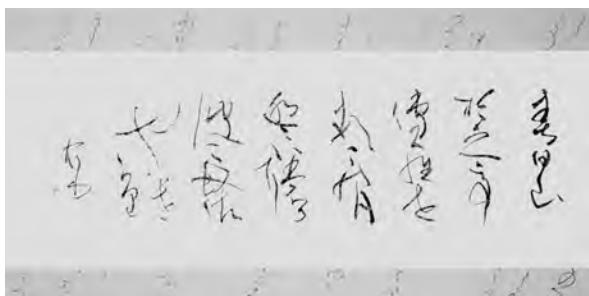
行草書は大いに発展し、趙壹の思惑にならって、それも堂樓に掛けるしかない八尺物に向かっています。

しかし、基本は半紙です。時々は、「分間布白」で固められた篆隸を動かしてみます。(図a) 今回は『石門頌』の「無」を振り動かしてみました。右上から一気に見て下さい。少し動きませんでしたか。

筆は羊毫撒き筆の長々峰、気に入っている筆の一つでもう40年以上使っています。けれども趙壹は私の耳元で囁きます。「役にも立たない草書を学んで何になるのか。楷書をやればいいのだ。」さて、あなたはどう答えますか？

## 21世紀の書

### —私の主張—



平成22年 書泉会14人展 70×135cm

作品A

漢字古典を基に  
平成22年「書泉会十四人展」  
を銀座で開催しました。私は3  
点の作品の内、1点を藤原佐理  
を基にした作品を書く事にしま  
した。

手順  
①歌を選ぶ  
②大字かなへと展開しやすい  
ように佐理(恩命帖・国申  
文帖・離洛帖)から集字して  
字典を作る(無い文字は  
偏と旁を組み合せる)



平成24年 書泉会展 90×90cm

作品B

③佐理は漢文體で綴られているので変体がとの組み合わせに配慮する。潤渴・濃淡による細やかな線の運筆、右へ左へと動く行と行との咬み合いなど、特徴的な部分を取り入れる。  
恩命帖・国申文帖などは、中国古典の十七帖・書譜などと違った点画がやわらかく連続も多い、また太細の変化や疎密などの自由闊達な動きが、かなとの共通点を見いだせて近代的な雰囲気のため、かな大字作品に取り入れやすいです。作品Aは平成22年「書泉会十四人展」出品、作品Bは平成24年「書泉会展—古筆からの展開—」出品です。しばらく佐理に取り組んで来ましたが、ムードは疎か形を追うだけで、まだ消化できおりません。

# 平成28年度 新審査会員作品

II

大山和歌子（漢）・田代明眸（刻）・小野原紅華（現）

## 「隻眼」

大山和歌子  
(高知)



「一隻眼」（物事の本質を見抜く独特の見識の意）から、

「隻」の一字をとつて書きました。紙に食い込むような力強い線をねらいましたが、まだ力不足で、未熟な作品となりました。

これからも深く力強い線、習熟した作品をめざして精進してまいりたいと思います。  
また、優れた独自の見識、「隻眼」をもつた人間になるべく自分を磨いていきたいと存じます。（和歌子）

田代明眸  
(宮城)



## 「鶯花事事姫」



金文の造形に魅了され40年。漢字・篆刻・刻字・前衛など金文を主体に微力ながら活動中です。千田得所先生との出会い、石心会の仲間に感謝致しております。歳月と共に深みを増す木の年輪の様に、人生に生かせる書作を続け、試行錯誤し自らの書が刻字へと変貌し開花結実するプロセスを楽しんでいきます。（明眸）



小野原紅華  
(神奈川)

## 「蕪村の句」

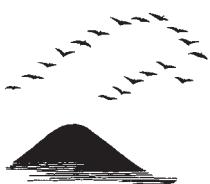
この度は審査会員に昇格させていただき、ただただ恐縮しております。

無心で没頭できる“書”と

の時間は、私の生活中の中でもとても貴重な時間です。これ

から先も書道を続けていきた  
いと強く思いました。

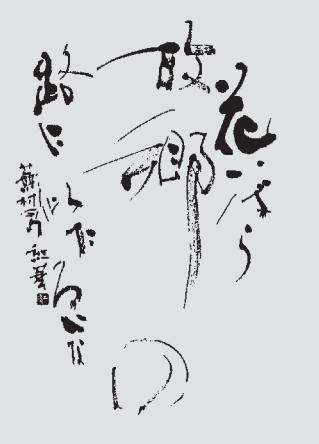
今はうれしさ以上に不安で胸がいっぱいですが、周りで支えてくださる方を裏切らぬよう、今後も頑張っていきた  
いと思います。（紅華）



## 平成28年度・新審査会員作品

ご紹介は、今回で終了となりました。

（原稿をお寄せくださいました皆様、  
ご協力ありがとうございました。）



大山和歌子  
(高知)

この度は審査会員に昇格させていただき、ただただ恐縮しております。

無心で没頭できる“書”と

の時間は、私の生活中の中でもとても貴重な時間です。これ

から先も書道を続けていきた  
いと強く思いました。

今はうれしさ以上に不安で胸がいっぱいですが、周りで支えてくださる方を裏切らぬよう、今後も頑張っていきた  
いと思います。（紅華）

蘭亭序（東晋・王羲之）③

漢字研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

当該古典の左記掲載  
部分以外も可。

〔解説〕 東晋の王羲之は、旧來の書風を大きく変革した。各書体に精通し、特に楷書・行書・草書の三書体を藝術の域にまで高めた。以降「書聖」と仰がれ、後世の書人に大きな影響を与えた。その書は唐の太宗に酷愛されたが、皮肉にも王羲之の真跡すべてを

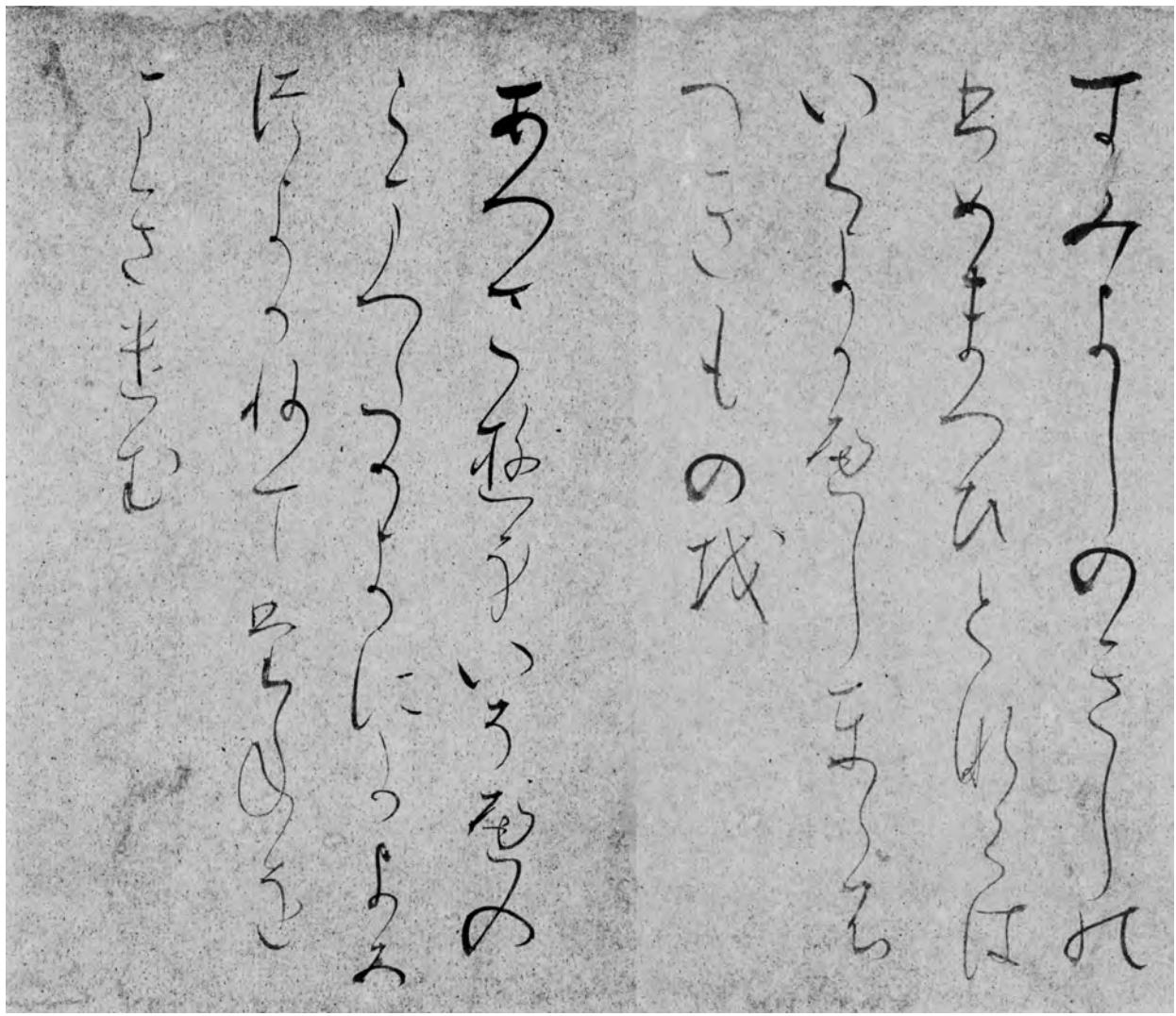
(宮内庁蔵)と「孔侍中帖」(前田育徳会蔵)は稀有な遺品である。

(編集部)



(90%縮小)

隨事遷。感慨係之矣。向之所欣。俛仰之間。以爲陳述。猶不以之興懷。況脩短隨化。終期於盡。古人云。死生亦大矣。豈不痛哉。每覽昔人興感之由。



(曼殊院蔵)

古筆鑑賞  
曼殊院本古今和歌集（伝 藤原行成）③

153

よみ

すみよしのきしの能  
ひめまつひとならば  
いくよかへしとふ  
べきものを

あづさゆみいそべの  
こまたがよにかよろ  
づよかねてたねを  
まきけむ

解説

曼殊院本古今和歌集は、平安朝の古筆の中で最小の巻物である。（縦14.2cm 全長286cm）表紙は、明からの舶來の萬曆綴子の裂が使用され、その左上に短冊形の題簽が貼られ、「行成卿筆」と墨書きされている。見返しには茶地に金泥・銀泥墨で草・流水・小鳥が描かれている。

王朝貴族の高貴な美意識を感じさせる装丁や、書そのものの芸術性から見ても、平安古筆の代表的遺品の一つである。

京都市左京区の曼殊院に伝来し、国宝に指定されている。現在は京都国立博物館に寄託されている。

（編集部）

※掲載図版は原寸

※落款を必ず入れる。署名、もしくは  
〇〇臨（押印のみも可）

かな研究部  
臨書課題

（半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）  
別紙を裁断して貼付も可。半纏紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全巻も可）

特別研究部  
臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）  
上記の掲載以外も可。

習い方解説 (三)

辻元大雲

萬里寒光  
(万里の寒光)

(祖詠)

冬の形容。みわたす限りの寒光。

今回も4字句です。冬の風情を詠じた句で、見渡す限りの寒々とした光景の意味です。今回も行書表現としましたが、やや太めの楮遂良哀冊あたりを念頭に置いて、平明な表現としました。皆さんには色々な書体、書風に挑戦してみてください。筆は柔らかめの羊毫中鋒筆を使用しました。暖かみのあるのがやかな表現を狙っています。

半紙4文字の場合、あまり潤滑や大小の変化などは表現しにくい場合もあります。墨の濃淡や含ませ方、筆の毛質や長短など、が、行草表現では何か変化を出しき場合もあります。墨の濃淡や含ませ方、筆の毛質や長短など、形状の異なるものを色々使いこなすことも大切です。

萬里寒光 よみ(萬里の寒光)

書体=自由



習い方解説 (三)

川島舟錦

教學相長(きょうがくあいちょう) (禮記) (學記)

教えることと学ぶことは互に助けあう。

今、しみじみ思うことは、先達の皆様に温かく見守られ導いていただいていたということ。さらに、仲間に支えられ、子ども達から生きる糧やエネルギーをたくさんもらっていたということ。

退職のときまで、生徒達を教導かなければと勘違いしていた。一生懸命生徒達に対峙すれば、それを受け止め何倍もの問い合わせをしてくれた。それに応える努力をしてきただけ。

塾を始めてからいいよと思うことは『子ども達の成長の早いこと』ぐんぐん伸びるので“追い越していってね”と言いながらおたおたしている。

“ああ、もっとまじめに勉強しておけばよかったなあ…”「教學相長」なかなか奥の深いことばである。

教 學 相 長 よみ (教学相長ず)



習い方解説 (三)

石井明子

冬空は澄みて大地は潤へり  
(中村草田男)

か  
ま  
す  
く  
そ  
れ

大  
地  
と

う  
る  
大  
地

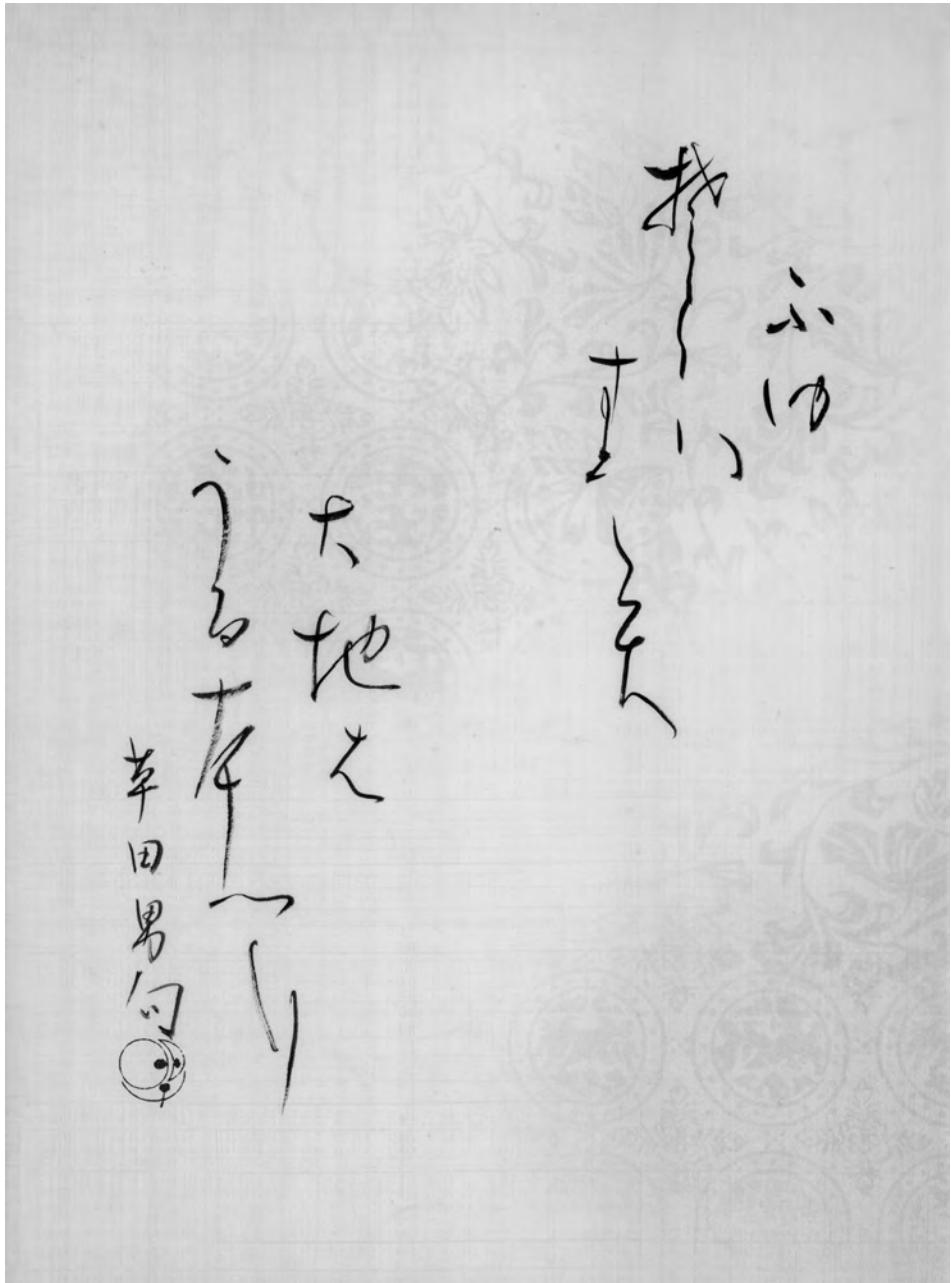
草  
田  
男  
句

創作

かな作品にするとき、文字数の  
差のみを考えがちですが、俳諧の  
句という意味を重視して、制作に  
臨みましょう。困難な切替ですが、  
現代的個性は表現し易いと考えら  
れます。同じ人が書いて、劇的な  
変化は期待できませんが、少し大  
きめな筆や禿筆を試すことをお勧  
めします。紙や墨も慣れてないも  
のを使ってみましょう。

今回は“短歌と異なる余白”を  
意識して創作してみました。

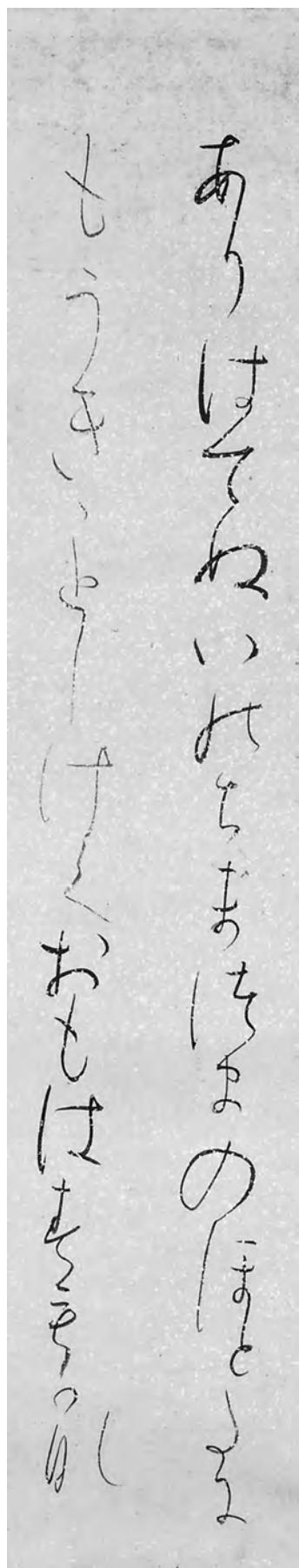
よみ方 冬(ふゆ)空(楚ら)は(八)澄(す)み(二)て(天)  
大地は(者)潤(うる)本(へ)り  
草田男句



かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 ありはてぬいの(能)ちまつ(徒)まのほどだ(多)に(示)  
もうきことしげく(久)おもはす(春)も(毛)が(可)な(那)

### 習い方解説 (三)

善養寺 紅風 選書

山里や雪積む下の水の音

(正岡子規)

かな条幅規定【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

善養寺紅風選書



雪が積っている下で水の流れる  
音が、聞こえてくるようです。な  
つかしい光景です。しを寄り添え  
て一行に見せる構成にしました。  
文字の伸縮、広狭、連綿等に配慮  
しながら中心線の移動に注意して  
書いて下さい。

よみ方 山里や雪(遊支)積(川)む(下)(多)の(能)水の音

子規の句

創作

\*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

### 習い方解説 (三)

小竹石雲



書体=自由

今宵對雨娛殘歲 明日逢人說去年  
(今宵雨に對して残歲を娛しみ、明日人に逢うて去年を説く)  
(顧璘)

\*たて形式に限る

余白の美しい作品を心がけました。そのためには、字粒をやや小さめにし、筆の弾ける力を利用して、キビキビとした動きにしました。渴筆の線が浮薄にならないよう、筆先を立てることが大切です。ズルズルした動きにならず歯切れよく書くことが大切です。

手中に十分覚えこませるべく數たくさん書くことが大事です。

### 習い方解説 (三)

前田 龍雲

漢字条幅規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

前田 龍雲選書

意味は「山や峰は月色に寒く見える」です。

今回は山東省にある雲峰山の摩崖に刻された鄭道昭の鄭羲下碑を元にした書風の楷書を参考手本にしました。用筆は筆の先が線の中を通る中鋒。円筆でゆったりとした懐の広い向勢が特徴です。焦らずゆっくり、大らかな気持ちとリズムによる運筆で書いてみまし



書体=自由

山峰染月寒  
(簡文帝)  
(山峰月を染めて寒し)

ペン字規定【一月十五日締めきり】

塚越紅苑選書

習い方解説(三)

塚越紅苑

さ 霧消ゆる 漢江の  
舟に向し 朝の 霧  
ただ水鳥の声はして  
いまだ覚めず 岸の家

紅苑書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

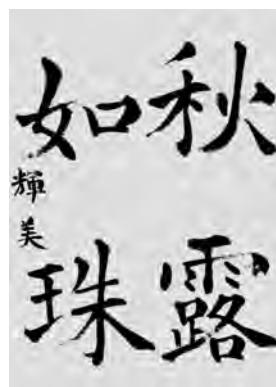
書体=自由

木々の葉が落ち、冷たい風が吹き、  
冬枯れのようすが目立ってきます。  
ふるさとを離れている方も、きっと  
自分の原風景に出会い、新たな出発を  
する事ができるのだと思います。  
新しい技術が日に日に進歩して、機  
械が文字を書いてくれます。しかし、  
私達は日本の文字をこの手で書くこと  
に誇りを持ってきました。  
生きた美しい筆跡は、その人の人格  
もうかがえるような気がします。  
いつの世にも、私達から手書きの文  
字を切り離すことはできません。  
郷愁を憶え、感動がよみがえる小学  
唱歌です。水辺の朝の様子です。  
ひらがなは漢字より小さめにして、  
調和させましょう。

※落款を必ず入れる。  
(自分の名前を入れること)

今月の

ホープ作品  
各部総評 No. 666



漢字部 師範 野木 輝美

褚遂良風の楷書。細部に至るまで神經が行き届き、習練の成果が窺える。温雅で品性の高い作品。

◎漢字部総評 上級は参考手本に拠る行草書作品の他、創意溢れる作品が多く見られた。鍛度不足は残念。筆法の鍛錬を。(萬城評)



現代詩文書部 特選 佐藤 弦佳

ハッとハートを寄せつけられた。

温かく深みのある線。紙面処理も素晴らしい、風景の見えてくる作。

◎現代詩文書部総評 文字を並べるだけではなく、紙・筆・墨等を吟して創意工夫の書作を。(梓江評)



かな条幅部 師範 酒井 恵子

控えめな表現が格調高く、独自の世界観を開拓し、飽きさせない。己れを知つての用紙選びが抜群。



◎かな条幅部総評 變体がな連・羅、悲の誤字多く残念。確認を、また、行の流れを滑らかにし、行間を形よく残しましょう。(明子評)

前衛書部 特選 田中 岳舟

中空にたたずみ何を思うのか?

とふと考えたくなる作品。幽境感漂う構成が良い。

◎前衛書部総評 趣向をすぐに想像させる作品多しこの点は大事。用紙に工夫を。(慧香評)



夕空はれて秋風吹き  
つきかけ落ちて鈴虫鳴く  
おもへば遠し故郷の空  
ああわが父母いかにおはす

かな部 師範 緋貫 智子  
叙孝書

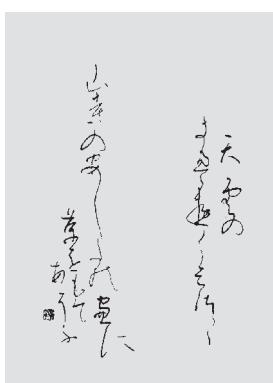
伸びやかで美しい線がバランスよく收まり、練度の高い作品です。配慮の行き届いた姿に感服します。

◎かな部総評 毎回記していますが、半紙に一首は、臨書と同じ筆では細すぎます。字の大小や太細の適正をつかみましょう。(洋子評)

漢字条幅部 師範 土屋 恵仙  
木簡練の風を生かし、暖か味ある線質でまとまりよく表現。字配り、落款も安定した作品。

◎漢字条幅部総評 上級2行は手慣れた作多かつたが筆力弱いものが目立った。下級1行も通貫性に欠ける作が気になった。(大雪評)

ペン字部 師範 安藤 叙孝  
一点一画に細やかな気持が行き届き明快で丁寧。漢字とかなのバランス・流れ・布置も良く美しい。た。メロディーが聞えてくるかの如く。益々のご研鑽を。(和楓評)



今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)



伊澤香雨書

180×60cm

漢字  
(水墨)

伊澤香雨 「漢詩」

「漢詩」

◆青淡墨の潤渴の変化を取り入れた隸書表現は斬新な雰囲気を漂わす。細線がやや弱く感じるのが惜しい。

(大雲評)

◆青墨を巧みに使い、線の変化に富んだ隸書作品。渴筆に強さが加わると更に大きく展開する。

(鄭街評)

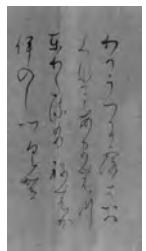
(瑞舟評)

臨書 (千葉) 松重翠景 「曼殊院本古今和歌集」



42×180cm

部分拡大



松重翠景臨

◆根気の必要な仕事を最後まで集中し料紙にまとめた。渴筆の部分もバランス安定し美しい臨書作。

(瑞舟評)

◆曼殊院古今の再現を試みる。的確な筆使いと構成の安定が技術の高さを物語る。真面目な取り組みに敬服。

(大雲評)

◆古筆の料紙に全臨。丁寧に最後まで集中した臨書態度すばらしい。墨色に配慮し、さらに澄みきった鋭い線ほしい。

(紅瑠評)

◆張金界奴本をよく観察し、安定感ある臨書。半折大に7行の中字表現は無理なく自然なりズムを醸す。

(大雲評)

◆墨色もよく、潤渴の大きな差を見せない技術は素晴らしい。余白もゆったり美しい。

(瑞舟評)

永和九年歲在癸卯暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢少長咸集此地有崇山峻嶺茂林脩竹又有清流激湍映帶左右引以爲流觴曲水列坐其次雖無絲竹管弦之盛一觴一詠亦足以暢叙幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰俯察宇宙之大俯察品藻之興向之所託放浪形骸之外雖趣舍萬殊靜躁不同當其欣於所遇暫得於己快然自足不知老之將至及其所之既倦情隨事遷感慨系之矣向之所欣已矣向之所欣豈不以之興懷況脩短終期於盡古人云死生亦大矣

臨書 (さつき書の会) 明石麗子 大  
「蘭亭序」

部分拡大  
永和九年歲在癸卯暮春之初會于會稽山陰之蘭亭脩禊事也羣賢畢少長咸集此地有崇山峻嶺茂林脩竹又有清流激湍映帶左右引以爲流觴曲水列坐其次雖無絲竹管弦之盛一觴一詠亦足以暢叙幽情是日也天朗氣清惠風和暢仰俯察宇宙之大俯察品藻之興向之所託放浪形骸之外雖趣舍萬殊靜躁不同當其欣於所遇暫得於己快然自足不知老之將至及其所之既倦情隨事遷感慨系之矣向之所欣已矣向之所欣豈不以之興懷況脩短終期於盡古人云死生亦大矣

明石麗子 臨

136×35cm

◆一貫した集中力が見事な作品。細字ながら懐広く、大らかな運筆すばらしい。更に高い目標を。

◆原帖をよく理解し、字形整い和らぎのある運筆は練度が高い。半折に7行を字間・行間バランスよくまとめた。

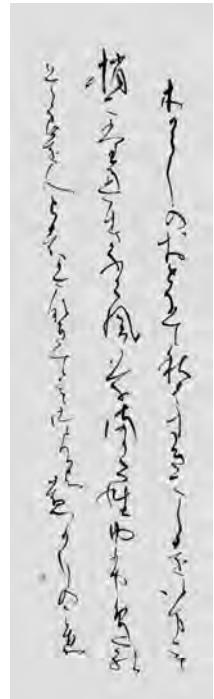
◆淡墨、超長峰から生まれる線質が豊かな表情をみせている。紙面の空間を配慮したモダンな隸書表現。

(紅瑠評)

◆長峰筆を巧みに使い、細線とにじみの妙。計算された余白の美しさ見事です。

(瑞舟評)

かな (高崎) 小峰 美加子 「木枯の」



178×52cm

小峰 美加子 書

◆リズム良く細線の心地良い動きは、日頃の学書の充実によるものか。和歌2首を3行にバランスよくまとめた。

(瑞舟評)

◆和歌2首をバランスよく表現している。小気味よいリズムが通貫し、爽やかなムードを醸し出す。

(大雲評)

◆よく鍛錬された線が心地よいリズムを生んでいる。文字の大・小・肥瘦・潤渴の変化に富んだ好感作。

(紅瑠評)

◆軽やかなりリズムで書き下ろし、行間美しくまとまる。3行目を小ぶりにするも無理のない構成。

(鄭街評)

前衛書 (青蓮) 山崎 恵 「流れる」



180×60cm

山崎 恵 書

◆筆力が充実し、たっぷりとった余白、上部から下部への流れ。リズム見事。紙面全体に緊張感が漲っている。

(大雲評)

◆上下に大胆な運筆で広がり、中央部の長い呼吸が紙面に動きと立体感を与えていている。落款印やや弱い。

(瑞舟評)

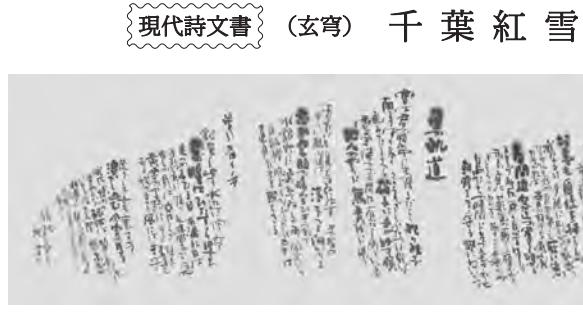
◆躍動感のある一連の動きに魅力を感じる。上部から一気に下部へ、粘りある線質で重すぎず収める。

(鄭街評)

◆上部の造形は気迫十分。それを下部につなぐ呼吸は、受けと躍動する力となる為の息づかい。

(瑞舟評)

「文屋 亮詩より」



60×180cm

千葉紅雪 書

創作の部(49点)	漢字 - 10点
かな - 9点	前衛 - 15点
現代 - 15点	篆刻 - 10点
臨書の部(31点)	漢字 - 29点
かな - 2点	漢字 - 2点

総出品点数  
80点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

〔かな〕

〔漢字〕

〔現代詩〕

〔漢字〕

漢字研究部  
(蘭亭序)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



樋口 玉葉

漢字研究部 総評

ゆったりと伸びやかな蘭亭序の雰囲気を良く捉えています。また、結体も良く安定した臨書です。加えて線質も穏やかで品のある秀作。落款は墨量が多く過ぎた為か、明瞭でないのが残念です。

強く、伸びのある、豊かな表情の秀作が数多く見受けられ楽しく審査させていただきました

した。反面、字典を活用して、正確な表現をしてほしいと感じる作品も少なくありませんでした。例えば「羣」の君字の横画が一本不足している作が何点かありました。その他、「長」の右払いに無理な用筆の作品が多く見られました。次号に出てくる「之」「足」などの右払いも同様ですが、筆の穂先が下側を通っていることに注目して書いて下さい。



黄慶美 花晴蒼  
津翠子 枝畦江花

登景糸城正雅  
志子峰乃園子雲

房喜翠華悦成  
江美江秀康山

白佳蒼泰朋恵  
雅月香香美美

かな研究部  
(曼殊院本古今和歌集)

選評 松村くに子

今月のホープ作品



利清炎  
子耀秀

香万雅  
里  
舟子泉

裕翠久  
美景美

良飛和  
泉龍子

木村順子

◎かな研究部総評  
「曼殊院」の書風を良くとらえ、のびやかに運筆している作品が多かった。英(の)の誤字が目立ちました。字母の確認をしてから書きましょう。

かな研究部成績表	特選	木村順子
彩華蕙玉 I 前や如木高英う駒大竹紅竜雲千安電高清う 仙書松 S 橋ま月曜井峰る扇雲扇瑠風泉雀葉波泉崎月る		すべてにおいて注意深く観察しており、細くて強い線は力強い。すがすがしさをも感じさせる流れが格調高い出来映えとなりました。
伊伊市五新新浅巣 東川十井川木 寿京紫佳翠恵な 子泉実賣子	伊坂山小六春田松堀複吉飯鉢礪山須福高下松小後根境木 藤日本本山玉本江田瀬高木貝村田田橋津重野藤津野村 敏雪里彩弘勝哲泰幸和彩幹利清炎香里雅裕翠久良飛和順 子翠美香江美子泉子雨生子耀秀舟子泉美景泉龍子	「曼殊院」の書風を良くとらえ、のびやかに運筆している作品が多かった。英(の)の誤字が目立ちました。字母の確認をしてから書きましょう。
千葉佳 安藤作 叙孝	京昌蓮調東蘭五もあ梓宗こ高椿は麗玉水紅大樹高椿千白生苑もた澄誠 橋苑紅布伯鼎葉くか江苑だ崎翠せ澤松海風雲原崎翠葉露大こ書くか春和 吉吉遊行山森森本望茂宮松平長橋根西積鈴近小小河工北加小岡梅宇鶴 田佐平本田田吉木川浦山谷本岸田木藤峰林野藤又藤野部津田澤 佑翠紅良真直睦藤明桂絢洋玉久 子綾雅江紀子谷香子水子江子翠霞子雲心子代子峠陽都子子	字母の確認をしてから書きましょう。
坪游澄も 和水春く 人	白や竜白石長蓮大澄長玉鉢白天皓千童玄卯蕙土富澄松大英潮や菊蒼大蒼大竜汐大白福竹大正竜有正水洞 鷺ま泉露習月紅雲春月か松扇珠璋映葉泉宵月書氣貴春村雲峰音昔ま月原阪陽阪泉風雲扇山扇阪華泉秋華海書	字母の確認をしてから書きましょう。
安荒阿青 藤川部木 裕津松 子泉江漣	山山森松松増本掘深平浜長野西中中豊戸一千高関杉菅新鹿驚齊齋斎後込小吳久草神川河河金加今石石飯安 崎口田村九田田切澤山野谷村山里里鳩村谷葉橋口田原行田山藤藤藤田藤山林 香律龍陽愛佳美幸佳だ永千陽葵亮星博つ陽佳芳祥昌満志美早杏つ舞喜美秋曾真典綾星和萩日貴洋津洋楊 織子博子石子雪子茎峰詢龍子子勝舟江子子校風子子江宿苗キエ功夢秋紳江美美華子美扇敬美夏泉子子子風	字母の確認をしてから書きましょう。
若高正誠書春明弘千八八た春竜高稻澄八樹翠奥春こ墨 松崎華和游汀漢舟葉生雲か汀泉崎毛春街原吟田生だ墨	大梓正幕千大梓蘭秀華樹青春高た土澄久陽高誠う千華日誠八文松 雲江華張葉阪江鼎韻祥原峰生真か氣春賀陽真和る葉祥新和街月	字母の確認をしてから書きましょう。
菅神實新庄下嶋渋波篠七猿佐櫻酒齊齊紺近小小小高黒倉木北菊上川川加加葛片鹿小梅臼植岩岩入今猪板石石石 沢宮川谷田條渡々田井藤藤野藤林西島口武柳本原村地林元崎納藤岡島倉山木井田潤崎上谷闇又垣崎川井 百合玉仁翠咏代祢美裕董和龍知美静桂遊閑純幸み智玄竹翠輝惠泰秋榮優順雅恵照裕光久簾綾美祥陽郁悠心理青嘉甘満澄 子枝美光艸子華子美右子貞子子山窓風子子葉径子舟峰溪仙子子芳美德子子山乃枝苑光子花華扇鳳子雨里水	字母の確認をしてから書きましょう。	
選蘭翠井漢く川美草村布水月 外161 渡綿吉吉谷八守茂宮宮三三真松前別藤深平春暉早濱花蓮野野沼丹西西浪長長中中中渡辻塚田田田武高砂鈴杉 名邊井田田種知木友木藤澤崎嶋浦庭本田川府村堀山岡尾坂田里田村中田羽澤澤川妻井村澤尾子本原中中山山橋川木田 信溪子か子玉子舟子芳睦秋明子ミ子秀仙子子洗子春る艸雪子永知子心子美峰花子仙子綾子子子衣源子苑子子	芳椿高明も玉竹桜松調硯菊大墨桜澄華前A澄土京樹洞秀正書玉青高土遊澄小遊上玉上春泉上春大玉有東澄秀旭祥 雲宣草春仙橋I春氣橋原書水華泉川蓮陵氣雲春中雲泉川泉汀会泉汀阪松秋実春水老紫 161 渡綿吉吉谷八守茂宮宮三三真松前別藤深平春暉早濱花蓮野野沼丹西西浪長長中中中中渡辻塚田田田武高砂鈴杉 名邊井田田種知木友木藤澤崎嶋浦庭本田川府村堀山岡尾坂田里田村中田羽澤澤川妻井村澤尾子本原中中山山橋川木田 信溪子か子玉子舟子芳睦秋明子ミ子秀仙子子洗子春る艸雪子永知子心子美峰花子仙子綾子子子衣源子苑子子	字母の確認をしてから書きましょう。